



杏林大学外国語学部
 応用コミュニケーション学科
 観光文化コース & 外国語学科専門科目群E群

ホスピタリティ・アップデート Hospitality Updates

創刊第2号

発行日 2006年7・8月

発行人 観光文化コース
 tourism@kyorin-u.ac.jp

広報担当 野口 洋平
 noguchi@kyorin-u.ac.jp

岩崎ゼミナール紹介

(6期ゼミ長 高橋綾一)

岩崎ゼミの活動理念は、2003年初頭、小泉内閣総理大臣が国会施政方針演説で「観光立国宣言」を行ったのにもない、観光という形態を通して国際文化交流の発展に寄与すること、そして、ゼミ活動を通じて観光交流を实践し、ゼミ生個々の人間の成長を図ることにあります。

研究テーマとして、国内外の自治体またはNGOレベルでの「文化遺産、自然遺産の保全と再生」の取り組み事例や国内農山村漁村におけるエコツーリズム、グリーンツーリズムへの取り組みを取り上げ調査研究しています。主として行っているのは、杏林大学が拠って立つ八王子市に軸足を置いたうえで、他地域の成功事例に学びつつ両者を比較調査することです。これにより、八王子市の眠れる観光資源を再発見



し、同時に観光発展に向けて解決すべき課題を見出すことができます。

当ゼミの年間を通しての最大の活動は、秋の杏園祭での展示発表です。昨年度は「千葉県南房総市との比較」をテーマに、現地での合宿と日帰りでの追跡調査を数回行いました。そして昨年11月には、八王子2大祭りのひとつである「いちょう祭り」に杏林大学から初めて出展参加を行いました。このように当ゼミでは、大学外での活動にも積極的に参加しています。

今年度、当ゼミは7年目を迎え、活動の影には先輩ゼミ生の存在があります。在校生だけではなく卒業された先輩方も時々いらしていただき、アドバイスをくださいます。杏林大学には、現在4つの観光ゼミが存在しますが、観光ゼミ生同士の合同懇親会も行っています。岩崎ゼミナールでは、先輩・後輩という縦の関係だけではなく、こういった横の関係も重要視しています。

これらの活動は、すべて学生が主体的に行っています。先生から「やらされている」のではなく、自らの意思を持って自主的に活動していることが最大の魅力です。



観光文化コース
 教育スタッフ

岩崎 公生 教授
 サービス品質の評価基準と評価システム
 エコツーリズムと地域振興

鳥尾 克二 教授
 観光産業(価値・構造・政策)

木崎 英司 講師
 ホスピタリティ産業における顧客接点人材

古本 泰之 講師
 観光開発論

野口 洋平 講師
 ホスピタリティ・マネジメント

ゼミ学生紹介

木崎ゼミ・ゼミ長 太田直徹さん

こんにちは、はじめまして。木崎ゼミ・ゼミ長の「太田直徹」です。この私の顔を見た事がある方もいらっしゃると思いますが・・・、あっ、「直徹」と書いて、「なおゆき」と読むんですよ。難しいでしょ? 覚えておいてくださいね (^皿^)b

さて今回は、私たち木崎ゼミについて簡単に紹介したいと思います。木崎ゼミには、女子23人、男子6人の総勢29人が所属していて、圧倒的に女の子が多いゼミです。前号の集合写真を見てもらっても分かるように、みんな明るく元気で、ゼミでは常に笑顔・笑いが絶えません。とても良い雰囲気です。

もちろん、それだけではなくではありません。大人数だからといって、自分の意見や主張・質問をごまかしたり、人に任せたり、隠れたりする人はひとりもおらず、みんな“自分”というものをハッキリと持っていて、力強い人ばかりです。

ゼミの活動内容などは、先程記載されていたように、5つのグループに別れて、研究・発表中です。

私たちはいつでもウェルカムなので、一度遊びに来てください(・<)b



今月の観光用語(2)

「レジャー」
 時間軸でとらえると、1日の生活時間のうち、睡眠や食事などの生活必須時間と、仕事や学業などの社会生活時間を除いた自由活動時間のこと。活動を軸にとらえると、レクリエーションや観光を含む、自由時間の活動の総称である。レジャーには、休息や気晴らしといった機能と自己啓発の機能がある。近代社会においては、心身の疲労からの回復といった機能から、観光をはじめとする自己啓発のような積極的な機能が大きな意味をもつ。

(出典:朝日新聞アエラムック
 「観光学がわかる。」)

杏林大学外国語学部
応用コミュニケーション学科
観光文化コース

〒192-8508
東京都八王子市宮下町476

電話 042(691)0011 (代表)
FAX 042(691)8617 (共用)
Email: tourism@kyorin-u.ac.jp

<http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/foreign/>



Hospitality DNA
ホスピタリティ DNA

観光文化コースの就職支援

“キャリアデザイン”とは？

観光文化コースは、ホテルやエアラインでの勤務経験のある教育スタッフを中心に、観光産業・サービス産業への就職を支援します。

また、家族や友人、会社、社会、文化などとの付き合い方、観光を通じたより豊かな人生の楽しみ方、“自分らしさ”などを一緒に考える「キャリアデザイン」のスタイルが特徴です。

就職活動

近年、就職活動が始まる時期がどんどん早まってきています。スタートダッシュをかけるためには、できるだけ早い段階で目的意識をもち、業界や就職に関する情報を集めていくことが大事です。

支援体制

観光文化コースでは、皆さんのキャリアデザインを細かく丁寧にサポートしていきます。

1～2年生では「キャリア教育」で就職するための知識を、「ホスピタリティ実習」では相手に好印象を与えるためのスキルを学びます。3年生以降はより就職力に直結した（模擬面接など）の講義が展開されます。さらに「キャリアサポートセンター」という場所では皆さんにとって有益な情報が提供されています。

また、一人ひとりの「キャリアカルテ」を作



成し、つねに教員が皆さんと話をしながら、最適な取得講義、インターンシップ先を見つけ出し、就職活動を支援します。

各種資格

観光に関する国家資格には「国内・総合旅行業取扱管理者」や「通訳ガイド検定」などがあります。また「秘書検定」などマナーに関わる検定も重要です。観光文化コースでは、皆さんの就職活動にとって重要な武器となる「資格」についても、講義内外で積極的に取り上げていきます。

また、手話など観光産業で必要とされる技術も、講義に取り込まれています。

観光文化を学ぶ留学生活 陳淳皿さん & 林矜屏さん（野口ゼミ）

杏林大学に入って、もう3カ月になりました。まだ短い時間ですが充実していたと思います。台湾の航空会社で働いた経験がありましたので、国際観光についてだんだん興味を持つようになりました。

日本に来て、日本語の勉強はもちろん、ほかにも観光に関するいろいろな授業を取っています。台湾にいた時には、観光の授業を一度も受けたことがありませんでしたので、とても面白く感じながら、逆に難しい面も感じながら勉強しています。特に国名や人名、ホテル、専門用語などをカタカナで表すことが多く、カタカナが苦手な私にとって覚えるのがとても大変でした。

「国際観光概論」をはじめ、ホテルの発展過程、日本の観光名所、旅行契約、JRの運賃計算などの観光に関する知識が少しずつ身に付きました。このような形のある知識だけでなく、ホスピタリティ論のような授業を通じて、接客の方法、電話やお辞儀の仕方など、形のないことも学んでいます。

日本語のレベルはまだまだですが、専門的な知識と心を込めてお客さんに接する礼儀を、将来ホテルに勤めて、大学で得た知識をしっかりと生かしたいと思います。

3年生 陳淳皿

観光に興味を持つ私は、この春学期に観光に関連する「国際観光概論」や「サービス産業論」など、そのほとんどすべてを受講しました。大変忙しい学期でした。

この学期から観光を勉強し始めたわけですが、観光関係の授業は難しさとメリットがあるように思います。たとえば、「国際観光概論」の内容は非常に広いので、初めて観光を学ぶ人にとっては複雑です。ただ、この授業を通じて、観光の定義などを理解できるので大きなメリットがありました。そして、私にとって「サービス産業論」はもっとも難しいかも知れません。なぜなら、日本に来る前、サービスの意味についてちゃんと考えたことがなかったので、すぐに理解できなかったからです。しかし、いつもサービス産業の具体例が紹介されるので、いまでは日本のサービス提供の仕方について気になっています。

観光の理論を学ぶ難しさがありますが、その代わりに、観光を学べば多くの人と交流することができます。また、さまざまなお客さんに関する見聞を広めることができます。観光の授業で学び続けることで、もっと多くの面白いことを発見できるかも知れません。私はきっと最後まで努力したいと思います。

3年生 林矜屏



台湾からの留学生（編入学生）
陳淳皿さん（左）と林矜屏さん（右）